

日中協力農村地域等における分散型排水処理モデルプロジェクトが竣工

——江蘇省環境保護庁ホームページ「2009年6月26日発表：ニュース動向」

6月23日、国家環境保護部部長の周生賢、副部長の張力軍および省委常委、常務副省長の趙克志ら一行が興化市戴南鎮趙家村、董北村の日中協力農村地域等における分散型排水処理モデルプロジェクト竣工式に参加した。

2008年胡錦濤総書記の訪日期間中、両国の環境保護部門は東京にて「農村地域等における分散型排水処理モデル事業協力実施に関する覚書」に署名し、代表的な地域を選定して農村地域における分散型排水処理モデルプロジェクトの実施を決定した。日中双方の協議によって、江蘇省と重慶市で協力のモデル事業を展開することになった。我が省のモデルサイトは興化市戴南鎮趙家村と董北村である。この「両村プロジェクト」は同時に国家「第12次五ヵ年計画」期間の汚染排出削減モデルプロジェクトでもある。

趙家村モデルプロジェクトは面積約500平方メートルの小さな庭園で、赤や黄色の小花が鮮やかに咲いている。「施設はすべて地下にあり、オートメーション化され、作業員の操作が不要だ」と地元環境保護局の職員は言う。説明によると、このプロジェクトの排水処理規模は150トン/日、サービス対象人口は約1200人、日本側の投資90万元、運転コストは0.6元/トン（見込み）である。

董北村モデルプロジェクトは同村の村民住宅の南側にあり、面積300平方メートル、処理規模は40トン/日、サービス対象人口は約210人、日本側の投資31万元、運転コストは0.5元/トン（見込み）である。

「両村プロジェクト」の処理技術はいずれも日本いであ株式会社の設計で、江蘇亜同環保設備会社が建設を担当した。ふたつのプロジェクトの恩恵を受ける対象範囲が異なるため、現地に適した措置を取るという原則に基づき、採用したプロセスもいくぶん異なる。

専門家の紹介によると、今回戴南鎮で実施したふたつのモデルプロジェクトには、その他の排水処理方式と比べて5つの特徴があるという。第一に、いずれも成熟し、実行可能な接触曝気法生物化学処理技術を採用し、処理水は「都市下水処理場汚染物質排出基準」の1級B基準に到達する。第二に埋蔵式のため、本体工事は地下で行い、単独で土地を占有することがなく、表面の景観を緑化することが可能で、かつ騒音が少なく、悪臭もない。同時に冬季の気温低下時に生物処理効果が低下する問題も解決した。第三に、水処理時の流入水、流出水はいずれも自動コントロールされ、自動化の程度が高く、設備の運転には

作業員の操作が不要で、管理が容易である。第四に、処理池にはコンクリートに替えて PE 膜を滲出防止素材として採用しており、これは国内初の試みである。第五に、運転時の設備防護措置が非常に行き届き、安定性が高く、プロジェクトの耐用年数をのばすのに有利である。技術側の紹介では、これは本プロジェクト最大の長所であり、日本側専門家は細部まで周到に考慮している。

「両村プロジェクト」はすでに試運転が始まっている。興化市環境モニタリングステーションのモニタリングによると、処理施設の流出水はすべて「都市下水処理場汚染物質排出基準」1 級 B 基準を達成しており、周辺河川の水質も明らかに改善したという。

都市住民の集中的居住による下水の集中排出と異なり、農村地域では住民が比較的分散しており、これが生活排水処理技術にとって非常に大きな試練となる。周生賢部長は次のように率直に語った。千家万户が分散する生活排水処理問題は当面、農村の環境保全が直面する最大の難題である。泰州のふたつのプロジェクトは日本の先進的環境保全理念と成熟した技術を利用し、この難題解決の新たな突破口となることが期待される。環境保護部は同時に、泰州に農村排水処理施設 5 セットをさらに寄贈することを決定し、江蘇省が農村環境保全の「新たな光景」を創り出すよう期待するという。

周生賢は談話の中で次のように指摘した。農村環境保全は農民の生活の質の向上、農村の様相の改善、社会主義新農村建設を推進する重要な基礎事業であり、党中央、国务院はこれを高度に重視し、国の環境保全全体戦略に盛り込み統一的に推進するよう求めた。現在、我が国の農村環境保全問題がとくに目立っている。多くの小都市や農村地域では発展レベルが低く、インフラ整備が遅れ、必要な下水収集、輸送、処理施設がなく、大部分の下水が未処理のまま周辺の水域に直接排出され、地域の水環境の重要な汚染源となり、農村地域の経済発展と住民の生産生活に深刻な影響を与えている。農村の生態環境の保全を重要な位置づけとし、社会主義新農村建設の推進と合わせ、科学的で有効な措置をとり、適切に解決しなければならない。

周生賢は、日中両国は長期的に環境保全分野で積極的かつ効果的な協力を実施しており、環境保全はすでに両国の協力と交流においてもっとも活発で潜在力のある分野のひとつとなっていると語る。2008 年、胡锦涛総書記の訪日期间中、日中両国の環境保護部門は東京で「農村地域等における分散型排水処理モデル事業協力実施に関する覚書」に署名し、今後 3 年以内に代表性のある地域を選んで分散型排水処理モデルプロジェクトを実施することを決定した。董北村、趙家村のふたつの排水処理施設はまさに協力の具体的な成果であり、これらふたつのプロジェクトの竣工は農村分散型生活排水処理事業の良好な発端を意味し、関係機関が制度を整備し、管理を強化し、これが農村汚染対策の優れた事業となることを

期待している。

竣工式で、周生賢は江蘇省泰州管轄下にある興化市戴南鎮党委書記の馬元連氏にプロジェクト開始を象徴する金色の「鍵」を引き渡した。

「両村プロジェクト」に取り組み、そのモデル効果を広げるため、省環境保護庁は近く試運転の効果を踏まえ、省の状況にあわせて処理技術をさらに調整し、武進、海門、大豊の3カ所にある22の農村の生活排水処理モデルプロジェクトと一緒に全省に普及させる予定だという。

(IGES 仮訳)